

J R東海労
大二運分会

交差点

No.528
2018年6月14日
責任者：今田昌二
発行：教宣部

「のぞみ265号」 新幹線車内殺傷事件 会社の抜本的な対策は！？

6月9日21時45分頃、「のぞみ265号」新幹線車内において、殺傷事件が起きました。

断じて許せない犯罪行為であり、この犯行に対して勇敢に立ち向かい、お亡くなりになったお客様には、心よりご冥福をお祈り申し上げます。また、お怪我をなさったお客様には、一日も早いご快復をお祈り申し上げます。

またもや繰り返された悲劇！！

2015年6月30日、「のぞみ225号」焼身自殺事件が起き、2016年5月16日には「のぞみ38号」傷害事件が起きました。今回、また悲劇が繰り返されました。

新幹線車内は、逃げ場のない密室状態であり、ひとたびこの様な事件が起ければ多くのお客様が巻き込まれ、犠牲になります。

私たちは、二度とこの様な事件が起きないように、会社「緊急申し入れ」を行い、対策を求めています。

今回の殺傷事件は、この間の対策では乗客・乗員の安全、生命を守りきれなかったことが明らかになりました。

この間、私たちは、会社に対して「新幹線車内業務の見直し」における車掌の3名から2名への体制では、乗客・乗員の安全が確保出来ないため、施策実施に断固反対をしてきました。

しかし会社は、「車内防犯カメラを増設する」「JRCPの役割拡大で異常時の対応力は向上する」と車掌2人乗務を強行しました。

現在の「車内防犯カメラ」だけでは、車内の安全は守れないし、お客様の不安は増大するばかりです。

今回の殺傷事件を踏まえ、乗客・乗員の安全確保のために、早急に警乗警備員の増員と警備区間拡大、車掌3名体制に戻すことを含め抜本的な対策を要求します！